

## 台湾におけるスポーツ日本語教材の開発について

### Development of Lecture Materials for Teaching Japanese in Physical Education in Taiwan

王敏東

台湾科技大学 応用外国語学科

#### 要旨

スポーツは社会、文化の縮図だとも言われるが、管見の限り、日本語教育において、スポーツに関する日本語について論じたものは稀である。体育大学や体育学科の学生を対象とするスポーツ日本語教育のみならず、スポーツを通して日本と様々な交流を楽しむ一般人向けの日本語教育も必要である。しかし、現段階においてはそのような教材は欠乏している。とくに、2020年の東京オリンピックが迫ってきた現在、スポーツ日本語教材の開発が求められている。以上のことに基づき、本稿は具体例を示しながら、スポーツ日本語教材の開発について、考えてみた。

**キーワード：** 専門日本語、一般人向け、オリンピック

# 台湾におけるスポーツ日本語教材の開発について

王敏東

台湾科技大学 応用外国語学科

## 1. はじめに

近年、グローバル社会において、スポーツを媒介とした異文化間交流も盛んになりつつある。日本-台湾におけるスポーツの交流を例にすれば、かつて台湾の日本統治時期（1895～1945年）に日本が台湾に野球を持ち込んだことがあげられる<sup>1</sup>。当時台湾のチームが甲子園にまで進出し、そのことは2014年に映画にもなった<sup>2</sup>。今でも陽岱鋼などの台湾人選手が日本のプロ野球界で活躍している。また、日本起源の空手や柔道は台湾だけでなく<sup>3</sup>、世界各国に伝播されており、オリンピックの競技種目にもなっている。言うまでもなく、オリンピックは世界で最も重要なスポーツの舞台である。次回2020年に東京で行われるこの大会は世界に注目され、数十万人規模の外国人の訪日が見込まれるといわれている<sup>4</sup>が、日本政府は、東京五輪・パラリンピックが開催される2020年の年間訪日外国人観光客数の目標を4千万人台とした<sup>5</sup>。また、世界各地でそれを大きく上回る数の人が、テレビやニュースなどで東京五輪と関連する情報に接すると予想される。よって、外国人がスポーツに関する日本語を学ぶ機会が大幅に増大すると考えられる。

また、日本人と台湾人は互いの国を行き来してスポーツ活動・交流をしている<sup>6</sup>。その中には、短期交換留学生として比較的長期間相手の国に滞在する学生もいる<sup>7</sup>。なお、台湾では英語につき、最も多くの人が学ぶ外国語は日本語である<sup>8</sup>。日本語は

<sup>1</sup> 孟等（2006：13）、王（2014）。

<sup>2</sup> 『KANO 1931 海の向こうの甲子園』という映画である。

<sup>3</sup> 李・王（2016）によれば、19の台湾の大学で空手のサークル、25の台湾の大学で柔道のサークルが設けられているという。

<sup>4</sup> 清水（2014：23）。

<sup>5</sup> 2016/3/8『産経新聞』、太田（2016）。

<sup>6</sup> たとえば「台日體育交流 桃園與香川進行女子壘球友誼賽」（2016/12/25『台湾好新聞』）、「日本仙台足球队來台交流 分享運動復興地方經驗」（2017/9/14『民報』）、「日台こども、交流戦「幼児野球」チーム招く 阿南／徳島県」（2018/2/11『朝日新聞』）、「台湾の生徒とバスケットで交流 横浜の高校チーム／神奈川県」（2014/11/17『朝日新聞』）、「台湾の高校生、柔道に挑戦 米沢中央高の生徒と交流／山形県」（2009/12/22『朝日新聞』）、「卓球通じ国際親善 日・中・韓・台ジュニア交流試合 埼玉」（1989/8/18『朝日新聞』）などのような報道をよく見かける。ちなみに、『朝日新聞』での調査はコーパス（文蔵）を使用。

<sup>7</sup> 陳（2017）。

<sup>8</sup> 台湾における日本統治期以来の言語事情や現在の日本語教育の様態については、他に青山（2017）が詳しい。

もちろん台湾の各体育大学や体育学科で広く開講されている。しかし、体育大学や体育学科で開講されている日本語の内実は学生の専攻にどのくらい対応できるだろうか。

以上のことから見れば、一般人向けのスポーツ日本語教育も、スポーツ選手ないし指導者を対象とするスポーツ日本語教育も必要だと思われる。

以上の事情を踏まえ、スポーツ日本語教材の開発について検討する。具体的には、2020年の東京オリンピックを意識しながら、観客のみならず、スポーツ選手およびコーチをも対象としたスポーツ日本語教材について考えていく。

## 2. 先行研究

日本語学という研究分野において、2006年12月の『日本語学』という論文誌に「スポーツのことば今むかし」という論考が掲載され、その後の2008年8月にも「スポーツのことば」という特集が組まれた。この号では、「放送でのスポーツのことば—外来語の扱いを中心に」、「新聞でのスポーツのことばの扱い」、「テニスのことば—スポーツのことばとその背景」、「水泳競技のことば—温故知新・二題」、「陸上競技のことば—競技名を中心に」、「スポーツにおける「技（わざ）」—体操競技のことばを出発点として」などが論じられている<sup>9</sup>。また、渡邊（2008）では2006年FIFAワールドカップドイツ大会5試合中継で用いられた外来語について分析されている。なお、台湾での研究だが、台湾での野球用語（とくに日本語由来の用語）が使用された状況に関する王（2014）の論考がある。

一方、清水（2011）は、外国人に日本語だけでなく日本社会、文化、考え方も伝えるべきだと主張しているものである。清水（2011）はスポーツ社会学<sup>10</sup>等において、スポーツは社会、文化の縮図で、その国・地域のスポーツを通せばその地域、国の社会、文化が見えてくるという理由に基づき、日本語教材や生教材に出ているスポーツや、そのスポーツの特性を分析している。

---

<sup>9</sup> 詳細は文末「参考文献」を参照。

<sup>10</sup> 日本スポーツ社会学会によると、「スポーツ社会学は、スポーツと社会の関わりを追求する学問です。スポーツは体育、健康、体操、運動、遊び、舞踊、武道、身体などと密接な関係がありますので、守備範囲は広いです。社会がスポーツに与える影響と、スポーツが社会に与える影響と、両方の方向があります。」という (<http://jsss.jp/about/index.html>) (2018/11/6 検索)。

岡村・永松（1999）ではニュージーランドでよく使われる日本語の教科書に日本のレジャー・レクリエーション活動がどのように扱われ、紹介されたかが調査されている。斎藤（2008）では、「柔道用語を基とした、標準日本語とは異なる変容日本語」が、世界の柔道家の間で「共生言語」として使用されている状況を論じながら、その変容日本語の特徴の一端が明らかにされている。また、斎藤・石本・木村・後藤・告・吉岡（2016）では、ブラジル、モンゴル、サウジアラビアなど世界多くの国から日本に訪れた柔道コーチと日本人学生との言語交換（Language exchange）の様子が紹介されている。なお、出雲・木幡・川北（2009）は日本人学生と留学生が混在する大学体育実技授業（「混在授業」）の教育成果を向上させるため、留学生が日本の大学に入る前の体育・スポーツ経験を調査したものである。この調査で台湾人留学生の体育・スポーツ種目経験数は日本人学生に比べて3.61～4.17種目少ないことが分かった<sup>11</sup>。

さらに、清水（2014）は、東京オリンピックは単にスポーツだけでなく、経済、観光など様々な分野にかかわっていると指摘した一方で、日本語教育も積極的に2020年の東京オリンピックと繋げた方がいいと呼び掛けている。日本で開催された世界的なイベントと語学、文化交流教育について述べられている清水（2014）では、2020年の東京オリンピックで数十万人規模の外国人の訪日、それを上回る人々のオリンピック観戦等で、彼らの日本語使用のための日本語教育、それに向けての教材等が必要だと見込まれている（清水（2014：23））。

以上のように、スポーツに言及している日本語学の研究があり、スポーツ社会学界でも日本語教育のスポーツとの関与が勧められていることが分かる。しかし、管見の限り、『圖解分類単語』（1982）、『圖解日語単語王』（2016）などのテキストに含まれる、陸上や武道などに関する課（ただし数十課のうち数課のみである）や、『跟我學日語』という台湾で出版されている日本語学習誌のようなものに野球などのコラムが不定期に出たことがある<sup>12</sup>ぐらいで、スポーツ日本語という専門日本語の教材は見当たらない。

専門日本語の教材としてはビジネス、観光などに関する教材が多いが、それに加えて近年介護日本語の教材も出ている<sup>13</sup>。また、専門日本語教材の作成過程を詳細に紹介したものとして王・頼（TAKANEZAWA）（2016）、王（2017）があげられる。

<sup>11</sup> 日本=11.76、台湾=7.89、韓国=8.15、中国=7.59（出雲・木幡・川北（2009：83））。

<sup>12</sup> 2017年10月号、2018年4月号などである。

<sup>13</sup> 王（2017）。また、ビジネス日本語関係の教材については王（1997）、観光日本語関係の教材については王（1998）が詳しい。

王・頼 (TAKANEZAWA) (2016) は電気系工学、王 (2017) はデザインといった専門分野の語彙を選別し、それぞれ電気系工学と、デザインの専門日本語の教材を開発した<sup>14</sup>。両教材とも選別された語彙と日本語能力試験の文型とをベースに、50音から敬語までの学習内容を、デザインもしくは電気系工学に即した題材で24課に分けて作成されたものである。つまり、構成は『みんなの日本語』や『学ぼう！にほんご』と同様であるが、語彙はそれぞれ電気系工学・デザインの分野での重要語を多く入れたのである。また、専門分野の重要語を導入するため、例文や練習も電気系工学・デザインを専門とする学生や会社が遭遇する場面を想定して作られたものが多い。

### 3. 2020 東京オリンピック

東京オリンピックの公式ホームページによると、2020年の東京オリンピック競技大会では、史上最多の33競技・339種目が42の競技会場で開催されるという。実施されるのは以下の33競技である<sup>15</sup>。

水泳、アーチェリー、陸上競技、バドミントン、野球・ソフトボール、バスケットボール、ボクシング、カヌー、自転車競技、馬術、フェンシング、サッカー、ゴルフ、体操、ハンドボール、ホッケー、柔道、空手、近代五種、ボート、ラグビー、セーリング、射撃、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン、卓球、テコンドー、テニス、トライアスロン、バレーボール、ウエイトリフティング、レスリング

### 4. 台湾体育大学および体育学科で開講されている日本語

台湾では2018年現在スポーツ・体育関係の学科は100もあり、これらの学科を擁する大学は56校にのぼる<sup>16</sup>。また、台湾ではスポーツ・体育関係の大学が2校あり、いずれも国立の大学である。

これらのスポーツ・体育関係の学科での日本語の開講状況は表1のようになっている。

---

<sup>14</sup> 文末「参考資料」で提示した頼(Takanezawa)・横山・王(2019予定)と、王・王(2019予定)が出版される予定となっている。

<sup>15</sup> (<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/>) 2018年11月1日に検索。

<sup>16</sup> スポーツ・体育関係の「学程」(プログラム)や大学院が含まれる。

表1 台湾のスポーツ・体育関係の学科における日本語の開講状況<sup>17</sup>

国公立か 私立か	大学名	学科名	日本語が開講 されている部門
国公立	國立臺東大學	體育學系	学科
	國立臺灣體育 運動大學	休閒運動學系	大学共通
私立	中國文化大學	體育學系	学科
国公立	國立臺灣體育 運動大學	體育學系、競技運動學系、球類運動 學系、技擊運動學系	学科
	國立清華大學	體育學系	大学共通
	國立臺灣 師範大學	體育學系、運動競技學系	
	國立高雄 師範大學	體育學系	
	國立東華大學	體育與運動科學系	
	國立臺南大學	體育學系	
	國立臺北 教育大學	體育學系	
	國立臺中 教育大學	體育學系	
	國立體育大學	體育研究所、適應體育學系、球類 運動技術學系、陸上運動技術學系、 技擊運動技術學系、運動科學研究所	
	國立臺灣體育 運動大學	休閒運動學系	
	國立屏東大學	體育學系	
	國立中正大學	運動競技學系	
	國立彰化 師範大學	運動學系	
	國立高雄大學	運動競技學系	
	臺北市立大學	體育學系、球類運動學系、陸上運動 學系、水上運動學系、技擊運動 學系、競技運動訓練研究所	
私立	輔仁大學	體育學系	
	中國文化大學	技擊運動暨國術學系	
	長榮大學	運動競技學系	

表1でまずスポーツ・体育関係の学科の学生は各自の大学で日本語を学習する機会が与えられていることが分かった。しかし、スポーツに関する日本語の提供は十分だと思われぬ。彼らが学習しているのは、ほとんどはどの学科の学生でも履修できる

<sup>17</sup> 大学名と学科名は固有名詞なので、原語のままにする。ちなみに、台湾では「學系」は日本の「学科」に相当する。

一般的な日本語である。スポーツに特化したものとしては、国立臺東大學體育學系と国立臺灣體育運動大學休閒運動學系の2大学（2学科）で「運動日本語」が、中國文化大學體育學系の1大学（1学科）で「体育日本語」が開講されているぐらいである（表1上部灰色に欄）。使用された教材のうち、スポーツと深く関わっているのは衛星放送のスポーツ番組（国立臺東大學體育學系）のみである。

## 5. 実践研究

本研究では日本語学習者を対象としたスポーツ日本語教材を開発することを目的としている。具体的な進め方としては、まず、どのようなスポーツに関する日本語教材を開発するかを検討する。新聞でよく取り上げられたスポーツや、日本語学習者が高く関心を持つスポーツを把握してから、そのスポーツに関する内容を教材として試作してみる。また、作った教材を使って実際に日本語学習者に教えてみて、フィードバックを求めて修正する。

### 5.1 台湾人が関心を持つスポーツ

台湾人向けのスポーツ日本語の教材を開発するのに、まず台湾人がどのようなスポーツに関心を持っているかを探る。この部分は新聞でどのようなスポーツがよく取り上げられているか、そして台湾人の意見、という2つの方向から調査を行う。

新聞についての調査は、2018年11月上旬に、台湾の大手新聞である『聯合報』<sup>18</sup>においてこの20年間（1997年1月1日～2018年10月31日）に、2020年の東京オリンピックで実施される33競技がそれぞれどのくらいの記事に出ているかを調査した（表2における第2欄）。

台湾人の意見については、日本語学習者と、スポーツ専攻の学生および体育の教師を対象とし、2020年の東京オリンピックで実施される33競技の中で「a.関心を持つ競技」、「b.やったことがある、またはある程度知っている競技」、「c.ルールなどに関する日本語の表現が知りたい競技」を選んでもらう、というアンケート調査をする。台湾人を対象としたこの2つの調査は、どちらも2018年11月上旬から中旬にかけて実施した。日本語学習者は2018年11月現在台湾の4つの大学で日本語を勉強している学生236人で、スポーツが専門の人は（日本語が分かるか否かは関係ない）台湾人28人である<sup>19</sup>。調査結果は表2の右の欄の通りである。

<sup>18</sup> コーパス（聯合知識庫）を使用した。

<sup>19</sup> 体育の教師や体育学科の学生が含まれる。

表2 2020年に東京オリンピックで実施される33競技に対する台湾人の関心<sup>20</sup>

	『聯合報』で見られた記事数 <sup>21</sup>	台湾人の意見(人数)					
		a.関心を持つ競技		b.やったことがある、またはある程度知っている競技		c.ルールなどの日本語表現が知りたい競技	
		大学生 n=236	体育専門 の人 n=28	大学生 n=236	体育専門 の人 n=28	大学生 n=236	体育専門 の人 n=28
水泳	27808	84	17	166	25	75	11
アーチェリー	4207	62	5	21	5	55	1
陸上競技	10775	37	16	74	25	27	12
バドミントン	818	92	18	169	22	94	10
野球・ソフトボール	29882/3444	66	12	96	19	73	8
バスケットボール	24157	70	13	143	22	83	10
ボクシング	2989	36	2	3	4	25	1
カヌー	1064	17	0	1	1	14	0
自転車競技	24017	31	2	50	5	29	2
馬術	1629	33	1	3	1	29	2
フェンシング	605	35	1	3	0	27	1
サッカー	17661	34	5	57	13	36	5
ゴルフ	6955	10	1	19	12	16	0
体操	4728	66	16	13	15	37	2
ハンドボール	1623	9	4	5	12	12	1
ホッケー	950	9	1	5	3	10	0
柔道	3350	22	2	5	7	22	2
空手	1373	24	2	3	1	21	3
近代五種	122	33	1	1	1	23	0
ボート	2566	15	0	2	2	14	0
ラグビー	1441	12	1	5	5	12	1
セーリング	3740	10	1	0	3	14	1
射撃	7286	49	1	10	2	23	1
スケートボード	1966	23	1	12	0	21	1
スポーツクライミング	2698	14	0	2	2	14	0
サーフィン	2709	26	3	4	2	20	0
卓球	6880	65	8	133	15	58	6
テコンドー	6333	17	8	12	2	16	2
テニス	12215	53	7	72	14	49	4
トライアスロン	1571	21	3	10	3	21	0
バレーボール	4647	81	16	131	18	74	7
ウエイトリフティング	3595	22	7	10	2	15	1
レスリング	1091	20	1	0	0	16	1

<sup>20</sup> 2020 東京オリンピックの公式ホームページの「競技一覧」に提示された順番に示す。

<sup>21</sup> 33 競技の中国語訳の「游泳」、「射箭」、「田徑」、「羽毛球」、「棒球／壘球」、「籃球」、「拳擊」、「輕艇」、「自行車」、「馬術」、「擊劍」、「足球」、「高爾夫球」、「體操」、「手球」、「曲棍球」、「柔道」、「空手道」、「現代五項」、「划船」、「橄欖球」、「帆船」、「射擊」、「滑板」、「攀岩」、「衝浪」、「桌球」、「跆拳道」、「網球」、「鐵人三項」、「排球」、「舉重」、「摔角」をそれぞれキーワードとし、検索して出てきた数である。



表2で、新聞記事でよく報道されたスポーツと、台湾人が「a.関心を持つ競技」、「b.やったことがある、またはある程度知っている競技」、「c.ルールなどの日本語の表現が知りたい競技」のランキングにばらつきが見られたが、水泳、陸上競技、バドミントン、野球・ソフトボール、バスケットボール、自転車競技、サッカー、卓球、テニス、バレーボールなどはかなり上位にあるのが分かる。

よって、台湾人向けのスポーツ日本語は上記の調査結果を配慮して導入すればよかろう。

## 5.2 スポーツ日本語教材の試作

この節では台湾人の関心が高いスポーツについての日本語の教材を試作する。前掲表2の調査結果の他、2016年にリオ五輪でシングルス4位、団体銅メダルの成績を残した日本の福原愛選手が台湾人の江宏傑選手と結婚し、台湾人の卓球に対する注目度を高めたこと<sup>22</sup>や、2018年11月現在、香港の卓球選手も卓球でよい成績を収めていること<sup>23</sup>から、卓球日本語の教材を試作することにした。

まず、例1では卓球ゲームのイメージ図を提示する（付録を参照）。

また、例2は卓球の練習を想定した場面である（付録を参照）。

なお、例1と例2における日本語の部分は学習者にいつでも簡単に正しい音声聞けるように、日本語母語話者に録音してもらった。

## 5.3 模擬授業

日本語教育現場からのフィードバックを教材に反映させるため、例1と例2（付録を参照）を用いて、2018年11月下旬に台湾のT大学で日本語を履修している<sup>24</sup>学生32人<sup>25</sup>を対象に模擬授業を行った。

授業の最後に、教材に対する意見を2問構成のアンケートで調査した。教材に対する満足度を「非常に満足した」、「満足した」、「まあまあ満足した」、「あまり満足しなかった」、「不満」という5段階のどれに当てはまるか（第1問）を選んでもらったところ、「満足」50%と「とても満足」37.5%という結果を得ている。また、この教材

---

<sup>22</sup> 福原氏は中国のメディアにも注目されている（『知恵蔵』）。

<sup>23</sup> 国際卓球連盟によると、2018年11月現在女子最新世界ランクで香港の杜凱傑選手が14位に（テレビ東京（2018/11/2））、同じく香港の黄鎮廷選手が男子世界ランキングトップ10の8位に入っている（ラリーズ編集部（2018/11/2））という。

<sup>24</sup> 約90時間の日本語学習歴を持ち、動詞の「テ形」を既習している。

<sup>25</sup> 32人の中には大学の卓球チーム代表が2人いる。

に対する意見を書いてもらったところ（第2問）、「（音声教材の）音質があまりよくなかった」、「書式・レイアウトがもうちょっときれいだったらよかったのに」、「絵をもう少し可愛く書いたら完璧だったが」、「図をより小さくし、文字（書体やカラー）をもっときれいにしてほしい」、「卓球用語についての説明があった方がいい」、「“ネットイン”や“タイム（アウト）”などの常用語もほしい」、「卓球をテーマにした映画『ミックス』を教材に入れたら」、「日本語の教材といえば文法（文型）を中心としたものが多いので、術語、常用語をクイズの形で導入するのはどうか」などの意見を得た。

また、2018年11月下旬にT大学の卓球チーム代表3人と同大学の卓球部の5人に同教材を見てもらい、意見を求めた。全員この教材に「とても満足」か「満足」という意見を示しているが、「確かに柔軟体操はするが、裸足ではしないよ」、「ラケットの持ち方が変」、「卓球の審判はホイッスルを使わないよ」という図に対する指摘と、「日本語が分かる部員なら卓球に関する単語を知りたいと思うが、日本語に興味がない人は、この教材にも興味を持たないだろう」との意見を得ている。

さらに、学生がこの教材を使用した後の言語知識・言語活動の評価について探ってみたところ<sup>26</sup>、「卓球用語の習得に最も役立ったと思う」（10人）<sup>27</sup>、「聞くことに多少役に立った」（4人）<sup>28</sup>、「卓球関連のニュースを見るのに役に立つだろう」（4人）<sup>29</sup>、「卓球関連の記事を読むのに役に立つだろう」（3人）、「非常に口語的な表現で分かりやすかった」（3人）、「スポーツアニメを見るのに役に立った」（2人）<sup>30</sup>、「話すこと

<sup>26</sup> この教材を使った後、どのような言語知識を獲得しましたか。そしてあなたの日本語が、「聞くこと」や「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」に関してどのような影響を受けましたか、という自由回答形式の質問だった。本稿が審査を受けた段階で査読委員会のご意見をいただいたので、この部分の調査は2019年3月に、前記40人（台湾のT大学で日本語を履修している学生32人と、T大学の卓球チーム代表3人と同大学の卓球部の5人）のうち新たな調査を承諾してくれた17人の学生を対象にして行った。ここにおいて査読委員および再度の調査に協力してくれた学生に感謝の意を表したい。

<sup>27</sup> 他に「“審判員”や“ファン”など他のスポーツにも使われる言葉がわたしにとって有用だった」という意見を示した1人がいた。

<sup>28</sup> 他に「卓球とは限らないが、ラジオなどを聞く時、分からない言葉があったら、どうにもならないことがある。だから、この教材は有用なものだと思う」という意見もあった。

<sup>29</sup> そのうちの1人はとくに「来年東京オリンピックを見る時に役に立つだろう」とオリンピックについて言及した。

<sup>30</sup> そのうちの1人は「教材にあった言葉がアニメに出た時とても嬉しかった」と言い、もう1人は「アニメに出た言葉（の発音）を聞いても書きとれなかったことがあった。この教材に出会い、書き方が分かり、音声との繋がりができた」と述べている。他に「（福原）愛ちゃんのユーチューブを見るのが好きで、この教材のおかげで愛ちゃんのユーチューブをもっと生き生きに見られるようになった」という意見を示したのも1人あった。

に役に立つと思う」(2人)、「文法知識」(1人)、「自分は卓球をしていないが、“観客席”、“応援団”、“マネージャー”、“柔軟体操”など別のスポーツにも使われる言葉は別のスポーツに接する場面に役に立つと思う」(1人)、「卓球をやっていないが、卓球に関する日本語教材を読んでいた面白かった」(1人)、などの学生の言語知識に関するプラスの意見を得た一方、「話す力と書く力の伸びには限度がある」(1人)という意見もあった。また、学生の言語使用に関しては「日本人と卓球をする時に役に立つだろう」(1人)、「面白かった。たとえば教材にあった“君のスマッシュも大したもんですね”を学んで実際卓球をする時に使うようになった」(1人)と、「これぐらいの日本語を勉強したからといって卓球をする時あえて日本語を使用しようとすることはない」(1人)<sup>31</sup>という対立的な意見が見られた。また、「ほとんどやっていない卓球ではなく、野球やバレーボールに関する日本語教材だったら興味がある」(1人)と種目の違いに言及した意見や、「スポーツ以外の場面にこのような日本語を使うことはないだろう」(1人)と専門日本語というものの本質にかかわる意見もあった。学生の積極的な日本語使用につながらないのは、今回の調査対象である台湾在住の学生は、日本人と接する機会が減多にないためであろう。

なお、2018年12月上旬に、台湾の3つの大学で日本語を履修している学生136人を対象に、スポーツ日本語教材にあった方がいいと思うものを「術語、常用語」、「会話例」、「音声」、「図」、「クイズ」の中から選んでもらったところ、「術語、常用語」(77.2%)、「会話例」(66.9%)、「音声」(61.8%)、「図」(61.8%)、「クイズ」(41.2%)という答えを得た。

術語、常用語がほしいという彼らの意見に応えるためには、公益財団法人日本卓球協会のホームページなどから資料をあつめて、表3のような表現も入れたらよいのではないか。

---

<sup>31</sup> 2人とも卓球チームの代表で、1回目の調査を受けた時点で約90時間の日本語学習歴を持っていた。

表3 卓球の重要語<sup>32</sup>

プレー：玩、打	ゲーム（試合）：比賽	マイボール：發球權
第1ゲーム：第一局	第2ゲーム：第二局	最終ゲーム：第三局
ゲームオール：最終局	タイム（アウト）：暫停	ストレート：直球
ボールを打ちます：打球	バックハンド：反手	サービスミス：發球失誤
ネットイン：掛網進	エッジボール：擦邊球	ラリー：連續對打
チーム：隊伍、球隊	個人戦：單打	団体戦：團體戰
ミス：失誤	判定：判定	ジャッジ（します）：審判、裁定
イン（セーフ／入りました）：進	アウト：出界	ミスジャッジ：誤判
抗議します：抗議	イエローカード：黃牌	警告：警告
レッドカード：紅牌	退場（ペナルティー）：退場	得点します：得分
失点します：失分	ルールを守ります：遵守規則	対戦します：對戰
握手します：握手	○対◎：○比◎	
マッチポイント：賽末點、決勝點(Match Point)		
ガッツポーズ：握拳(表示“做得好、打得漂亮”)		
勝ちます：贏、勝	負けます：輸、敗	

#### 5.4 教材の出版

前節（5.3 模擬授業）で取り上げた「卓球」の他、「サッカー」、「バスケットボール」などいくつかの課の教材も作った。2018年12月に、これらの例を含めて、台湾の出版社にスポーツ日本語教材出版の計画書を提出したところ、よい返事を得ている。将来的には、2020年の東京オリンピック大会で実施する33競技を中心にスポーツ日本語の教材を整備し、正式に出版したい。

また、前節（5.3 模擬授業）で学生が本教材の音声データに関してフィードバックしてきた意見については、模擬授業の時は筆者が知り合いに頼んで手元にある携帯電話で録音したもののため、音質などはさほど芳しくなかったかもしれないが、出版の際は、録音スタジオで日本語の教材を録音した経験が豊富な人が録音することになるので、質は大幅にアップすると予想される。また、図やレイアウトに関しても出版社が専門の担当者がしてくれると予想される。

<sup>32</sup> 「：」の後ろは筆者による中国語訳である。

しかし、教材を製作する際は、日本語教育に携わる者が注目する「採用するシラバスや到達目標」と、出版社が関心を持つ「利用者数への配慮」<sup>33</sup>とのバランスを、うまくとることが課題となる。

## 6. 終わりに

スポーツは、スポーツ社会学の分野では、社会、文化の縮図とされている。しかし、日本語教育ではスポーツに関する言葉についてあまり論じられていない。また、専門日本語教育でもスポーツに関する言葉はあまり取り上げられていない。しかし、日本-台湾におけるスポーツの交流は台湾の日本統治期より盛んに行われている。そのうえ、2020年の東京オリンピックは日本-世界とスポーツを媒介とする交流の機会を提供している。このようなことに基づき、本稿ではスポーツ日本語教材の具体例として「卓球日本語」を考案し、模擬授業で学生の意見を聞き、それを元により多くの競技の教材を作り、更なる充実のスポーツ教材を出版する、という実践例を提示した。とくに、初・中級日本語の教材において学生の専攻や興味・関心への配慮が少ないなか、本研究はスポーツ日本語教材の開発にあたっての有益な示唆を提示する。また、将来的には本研究の成果をオリンピックに関連する情報の報道や翻訳にも役立てることができれば幸いである。

**謝辞：** 本研究における部分的な資料の整理は台湾科技大学の李玟霖氏与李靖誼氏の協力を得た。また、試作した教材の図は台湾科技大学の林郁璋氏が描いてくださった。心より三氏に感謝を申し上げる。

---

<sup>33</sup> 筆者がいくつかの出版社と連絡をとっているなかで、「利用者の数イコール販売数」、「数として圧倒的に多い初級日本語学習者向けの、売れる本を作りたい」といった出版社側の意見を聞いた。

## 参考文献

日本語

- 王敏東 (1997) 「台湾におけるビジネス日本語関係の教材について」『日本語教育研究』34、pp.128-141
- 王敏東 (1998) 「台湾における観光日本語関係の教材について」『日本語教育研究』36、pp.93-104
- 岡村妥子・永松昌樹 (1999) 「日本語教科書に見るレジャー・レクリエーションに関する文化研究  
ニュージーランドにおける日本語教育の事例から」『大阪教育大学紀要 IV, 教育科学』48 (1)、  
pp.189-203
- 清水泰生 (2006) 「スポーツのことば今むかし」『日本語学』25 (14)、pp.18-35
- 齋藤孝滋 (2008) 「共生言語としての柔道用語をもととした変容日本語の特徴—世界マスターズ  
柔道選手権大会とフェリス女学院大学講道館日本語教育ボランティアの参与調査をとおして—」  
『言語文化と日本語教育』35、pp.97-100
- 小西いづみ (2008) 「スポーツにおける「技(わざ)」—体操競技のことばを出発点として」  
『日本語学』27 (9)、pp.4-11
- 鏡水兼貴 (2008) 「陸上競技のことば—競技名を中心に」『日本語学』27 (9)、pp.12-20
- 田中彰 (2008) 「水泳競技のことば—温故知新・二題」『日本語学』27 (9)、pp.22-34
- 中東靖恵 (2008) 「テニスのことば—スポーツのことばとその背景」『日本語学』27 (9)、pp.36-50
- 島津暢之 (2008) 「新聞でのスポーツのことばの扱い」『日本語学』27 (9)、pp.52-63
- 塩田雄大 (2008) 「放送でのスポーツのことば—外来語の扱いを中心に」『日本語学』27 (9)、  
pp.64-71
- 渡邊ゆかり (2008) 「サッカー中継で用いられる外来語」『広島女学院大学日本文学』18、pp.1-38
- 出雲輝彦・木幡日出男・川北準人 (2009) 「外国留学生の大学入学以前の体育・スポーツ経験に  
関する調査研究」『大学体育学』(6) 1、pp.79-90
- 清水泰生 (2011) 「スポーツと日本語教育」『日本語教育方法研究会誌』(18) 2、pp.18-19
- 王沛宇 (2014) 『台湾における日本語からの借用語研究—野球用語を例に—』銘傳大学応用日本語  
学科修士論文
- 清水泰生 (2014) 「東京オリンピック 2020 と日本語教育」『日本語教育方法研究会誌』(21) 1、  
pp.22-23
- 齋藤孝滋・石本桃子・木村奈々子・後藤可夏・告明音・吉岡希光 (2016) 「第 21 回講道館日本語  
教育ボランティア実施報告：世界の柔道コーチの皆さんとの双方向的な言語文化教育活動」  
『多文化・共生コミュニケーション論叢』11、pp.119-125
- 太田正隆 (2016) 「2020 年東京五輪に向けてのインバウンド広報 日本をどう世界に売り込むか」  
『AD STUDIES』58、  
([http://www.yhmf.jp/pdf/activity/adstudies/vol\\_58\\_01\\_03.pdf#search=2020%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%83%E3%82%AF%E8%A8%AA%E6%97%A5%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA+%E6%95%B0](http://www.yhmf.jp/pdf/activity/adstudies/vol_58_01_03.pdf#search=2020%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%83%E3%82%AF%E8%A8%AA%E6%97%A5%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA+%E6%95%B0)) (2018/11/8 検索)
- 「目標数倍増！ 2020 年来日外国人観光客数「4 千万人台」に設定へ」2016/3/8 『産経新聞』  
(<https://www.sankei.com/politics/news/160308/pl1603080003-n1.html>) (2018/11/8 検索)
- 青山玲二郎 (2017) 『世界に広がる日本の職人—アジアでうけるサービス』筑摩書房  
オリンピック競技一覧 (<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/>) (2018/11/1 検索)
- 公益財団法人日本卓球協会 (<http://www.jtta.or.jp/>) (2018/11/3 検索)
- 『KANO 1931 海の向こうの甲子園』公式サイト (<http://kano1931.com/>) (2018/11/5 検索)
- 日本スポーツ社会学会 (<http://jsss.jp/about/index.html>) (2018/11/6 検索)
- 「福原愛」『知恵蔵』  
(<https://kotobank.jp/word/%E7%A6%8F%E5%8E%9F%E6%84%9B-189380#E7.9F.A5.E6.81.B5.E8.94.B5>) (2018/11/4 検索)

テレビ東京 (2018/11/2) 「石川佳純 3 位で自己最高位タイ！日本人最高位をキープ<卓球・女子最新世界ランク>」 (<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20181102-00010002-tvtokyos-spo>) (2018/11/3 検索)

ラリーズ編集部 (2018/11/2) 「【卓球】張本智和が自己最高タイの 6 位に返り咲き | 男子世界ランキング(11 月最新発表)」 (<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20181102-00010005-rallysv-spo>) (2018/11/3 検索)

中国語

孟峻瑋等 (2006) 『台灣棒球百年史』中華民國棒球協會

馬場克樹 (2014) 「《KANO》——一個臺灣隊獲甲子園棒球賽亞軍的故事」

(<https://www.nippon.com/hk/people/e00058/>) (2018/11/5 検索)

王敏東・賴優和 (TAKANEZAWA Yuwa) (2016) 「電資領域日語詞庫的建置研究」, 第 11 回國際日本語教育・日本研究シンポジウム (The 11th International Symposium for Japanese Language Education and Japanese Studies)、2016 年 11 月 19-20 日、香港。(『第 11 回國際日本語教育・日本研究シンポジウム予稿集』、p.100)

李文心・王敏東 (2016) 「我國大專校院日本相關社團之調查研究」『臺灣日本研究』10、pp.23-52

陳郁文 (2017) 『赴日留學生異文化適應程度對其學習成就之影響探討——以阿德勒之文化適應五階段理論為中心』科技部補助大專學生研究計畫研究成果報告

王敏東 (2017) 「有關設計領域日語詞庫的建置研究」『日本学刊』第 20 号、pp.61-77

王敏東・謝淑方 (2017) 「臺灣日語學習人口及韓語學習人口的消長」『應用外語學報』27、pp.1-23  
教育部「106 學年度大專校院一覽表」

体育

(file:///C:/Users/USER/Downloads/106%E5%AD%B8%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%B0%88%E6%A0%A1%E9%99%A2%E4%B8%80%E8%A6%BD%E8%A1%A8-%E9%AB%94%E8%82%B2.pdf)

運動

(file:///C:/Users/USER/Downloads/106%E5%AD%B8%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%B0%88%E6%A0%A1%E9%99%A2%E4%B8%80%E8%A6%BD%E8%A1%A8-%E9%81%8B%E5%8B%95.pdf)

## 參考資料

紀曉雲・渡部隆・張理睦 (1982) 『圖解分類單語』文笙書局

日本語教育教材開発委員会 (2005) 『学ぼう！にほんご』専門教育出版

スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語』

希伯崙編輯部 (2012) 『21 世紀情境式日語圖解字』希伯崙出版

LiveABC 編輯群 (2016) 『圖解日語單字王』希伯崙出版

葉志成 (2016/12/25) 「台日體育交流 桃園與香川進行女子壘球友誼賽」『台灣好新聞』

(<http://www.taiwanhot.net/?p=406883>) (2018/11/8 検索)

李秉芳 (2017/9/14) 「日本仙台足球队來台交流 分享運動復興地方經驗」『民報』

(<http://www.peoplenews.tw/news/26286a31-16fe-497d-8719-acb445d7f534>) (2018/11/8 検索)

王敏東・王文宣 (2019 予定) 『給設計系學生的 初級日語』致良出版社

賴優和 (Yuwa Takanezawa)・橫山忠之・王敏東 (2019 予定) 『給電資學生的 初級日語』致良出版社

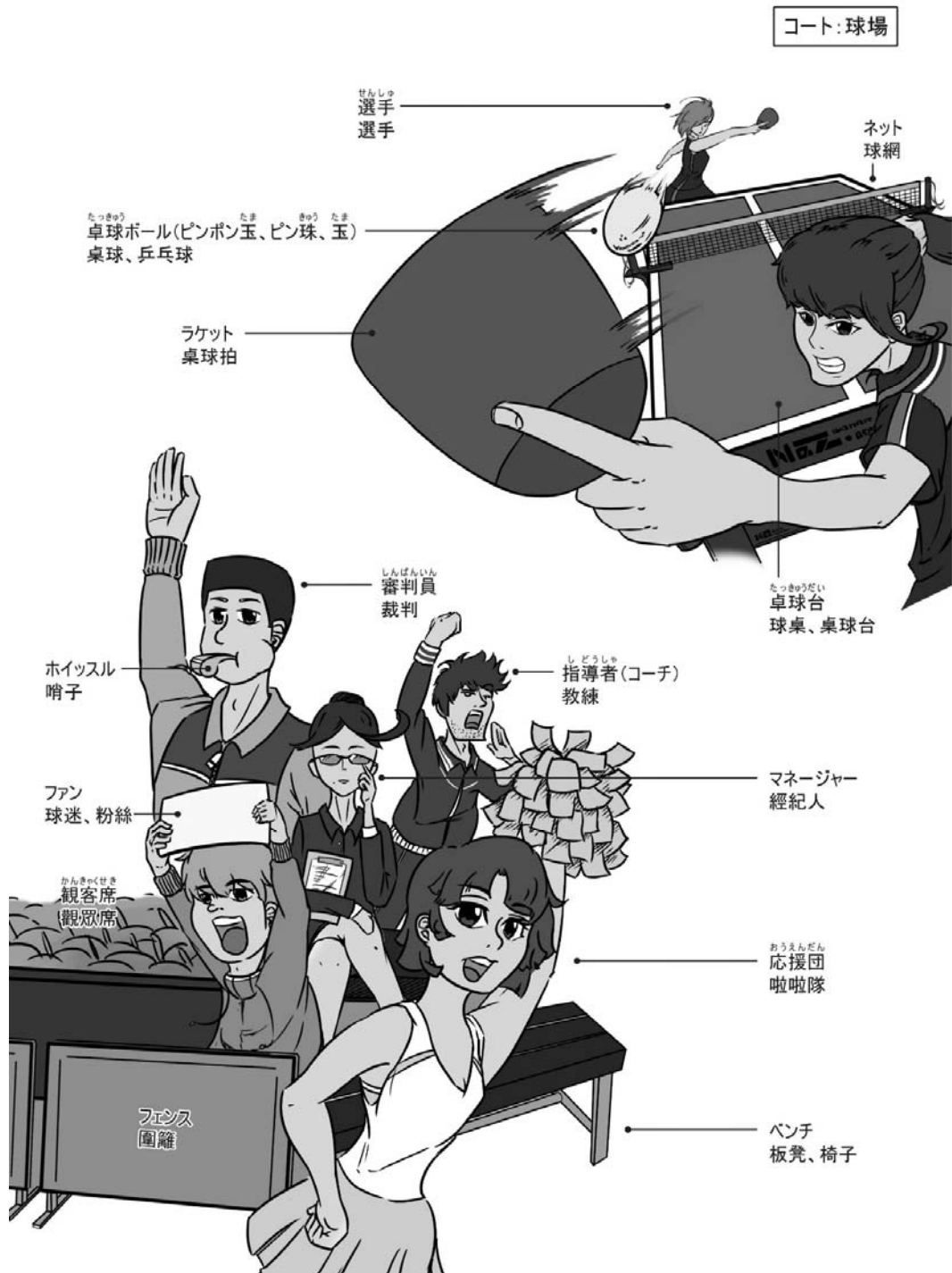
『跟我學日語』致良出版社 (<http://www.jlbooks.com.tw/Magazine/>) (2018/11/8 検索)

『聯合報』(<http://udndata.com/ndapp/Index#fm>) (2018/11/3 検索)

『朝日新聞』(<http://database.asahi.com/library2e/main/top.php>) (2018/11/8 検索)

付録

例 1





例 2

コーチ：さて、来月の試合のため、今日も頑張って練習しましょう。

選手たち：はい。

コーチ：じゃ、まず柔軟体操から始めましょう。

選手たち：はい。

コーチ、選手たち：

1 2 3 4、2 2 3 4…



教練：為了下個月的比賽，今天也好好練習！  
選手們：是！  
教練：那我們從暖身操開始！  
選手們：是！  
教練及選手們：1 2 3 4、2 2 3 4…



コーチ：はい、みんな、練習に入る前に卓球台の用意がちゃんとできているかを確認しましょう。

選手たち：はい。

コーチ：ネットが弛んでいませんか。ミスがないように、ラケットのチェックもしてくださいね。ボールは足りていますか。…では、練習を始めましょう。

教練：好、大家、正式練習之前確認一下桌球台是不是已經整好了！  
選手們：是！  
教練：球網有沒有鬆，也檢查一下球拍是不是ok。球夠嗎？…那就開始練球吧！

選手A：はい、行きますよ。

選手B：はい、よろしくお願ひします。

…あ、いきなり速いサーブ！

選手A：君のスマッシュも大したもんですね。

……

選手A：好、要開始囉！  
選手B：好的，請多指教。…啊！一發球就那麼快！  
選手A：你的發球也很厲害嘛。……

